

2017年度 学校法人 三幸学園 仙台スイーツ&カフェ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 松永 光利

学校関係者評価報告書責任者:学校関係者評価委員会委員長 高岸 学

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「あきらめない教務」をスローガンに、まずは基本である挨拶・言葉遣い・身嗜み・掃除の徹底指導を行い、これらを継続的に取り組むことにより、その効果として学生のやる気呼び起こしより良い環境づくり、そしてその先に精皆勤率の向上、検定合格率の向上、退学者数の減少を目指す。

○アクティブラーニング導入:学生が授業を受動的に受けるのではなく、能動的学習ができるような授業展開

○三幸学園教育体系化:各行事や教育内容を体系化し、教育効果の明確化。また、学園の教育特徴を明文化した「あきらめない教育(冊子)」を制作し、全教員へ配布・理念と実践の浸透を図る。

○あるべき姿の可視化:目指すべき学校像「主体性を育み、社会に貢献できる人材を輩出できる学校」・

あるべき教職員像 ①素直な心 ②情熱 ③平等で一貫した指導 ④生徒の未来を一番に考える

○技術向上に関する取り組み強化(教員研修・特別授業 等)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・教職員、それぞれの「役割」に対する当事者意識
- ・「目指すべき学校像」の周知徹底

② 今後の改善方策

- ・生徒・保護者への周知は入学前オリエンテーションで徹底
- ・「目指すべき学校像」の教員朝礼での唱和徹底

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・毎日朝礼などで理念を共有することは大切。現場では個々で話をすることが多い。
- ・経営理念などが見える化をして掲げ、携帯出来る様な工夫として配布用の資料も準備をしている企業もある。
常に理念等が見えるような工夫をすることは大切。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	4	3	2	1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- ・適切な学校運営を行う為の、各種ガイドラインを作成
- ・産学連携など、教育活動を外部にも情報公開を積極的に行うことを強化する

② 今後の改善方策

- ・引き続き多方面の有識者を招き、研修を予定
- ・学校のホームページやプレスリリースを強化し、情報公開に力を注ぐ(本部で準備中)
- ・教育活動に関する情報公開に向けて、より良い教育体制の整備を行う

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・生徒に対して情報をしっかりと開示する為にアプリを導入し、徹底していることは驚いた。

- ・就職においても、情報システム化等による業務の効率化が図られている。
- ・引き続き、多方面からの有識者を招いての講話や授業などのご意見を頂く場を設けていってほしい。
- ・企業として働き方の改革に関しては学校と同様で多くの悩みがある。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格(免許)取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・時代にあったカリキュラムやシラバス内容の構築
- ・教員の資質向上(教育技術・姿勢)、採用強化

② 今後の改善方策

- ・カリキュラムやシラバスの内容見直し
- ・平等で一貫した指導を行なう為、同教科内の教科会を強化し、教科間の連携を意識させる

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育や研修について、基本は本社一括、現場で行っている研修に関しては技術的な部分だけではなく、衛生面

の研修等も行っている。

・外部のコンテストや技術のコンクールに参加して技術を磨くことは大切。業界としてのつながりで行う場合もある。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・卒業後の支援や管理はまだ不十分。
- ・退学率のさらなる低減。

② 今後の改善方策

- ・同窓会サイトの活用や卒業後の資格取得・起業サポートなどを実施(卒業生向け起業サポートは決定)
- ・入学当初から学校にくる意味をしっかりと伝え、退学率低減につなげる(入学前オリエンテーションの実施)
- ・卒業生に対し、3年間は就業状況をヒアリングし続け、離職率調査なども実施

③ 特記事項

就職率:96.4%(108名/112名中)(前年度99%)
退学率:4.9%(前年度5.7%)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生に対する起業サポートは素晴らしい取り組み。
- ・実際の離職率等の調査を行う為に卒業後3年程度を使用して調査を行っていく取り組みも良い。
- ・在学中からのキャリア形成は非常に大事になってくる。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1

学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
中途退学者への支援体制はあるのか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・担任と生徒の更なる連携、スクールカウンセラーの活用強化。
- ・学生の健康管理の徹底。

② 今後の改善方策

- ・スマホのアプリ(掲示板)を使用し、情報公開のスピードと確実性を上げる。
- ・面談内容によっては担任からスクールカウンセラーとの面談を促す。
- ・衛生面からも、毎日体温や体調チェックを始業前に行うことを継続。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生を受け入れる側としては該当者の精神状態等、入職時にしっかりと把握をしておきたいと思っている。
- ・学生時代はスクールカウンセラーの利用は良いと思うが、実際に社会に出た際には相談できる窓口が無くなってしまふ為、現場としては、日々のコミュニケーションを取りながらサポートを行っている。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・防災に対する教員・生徒の意識。

② 今後の改善方策

- ・防災訓練の担当が、避難経路の確認や防災訓練を実施・継続する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
入学選考は、適性に行われているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・本校の教育理念や特徴を十分に理解している志の高い新入生の確保。

② 今後の改善方策

- ・募集活動を通して、本校の方針・特色を伝える。(在校生・卒業生を活用してのイメージ付け)
- ・土地ありきだが、校舎を広げて定員を増やしたい。

③ 特記事項

一般社団法人 宮城県専修学校各種学校連合会が定めたルールに則った募集活動を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・適正であれば問題ない

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	4	3	2	1
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

・自己評価の実施後、課題解決策を実施するまでに時間を有している。

②今後の改善方策

・自己評価を実施した上で学校関係者評価委員会を開催し、外部評価も取り入れた上でより精度の高い改善を迅速に実行する。

② 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

・地域貢献の強化。

② 今後の改善方策

- ・季節に応じてのイベントで地域と連携する。
- ・授業内に準備対応ができるようシラバスを運用する。
- ・地域活動に積極的に参加。
- ・学校施設の有効活用・貢献を考える。(来校型のイベントを強化し地域の方々に使っていただく。)
- ・地域の食材などを活かしたメニューの提案(自治体や農園など)

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・留学生の卒業後の進路先確保の困難
- ・留学生に対する受け入れ体制の柔軟性

②今後の改善方策

- ・留学生母国での起業支援の模索。
- ・留学生奨学金、学生支援の斡旋を行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

①: 人材育成方針・目標

⇒まずは基本から伝えつつ「あきらめない・言い続ける・見捨てない」教育を継続する。
生徒の未来を第一に考え、一貫した指導を行い、主体性のある生徒を育てる。

②: 学校運営

⇒人材育成(教員の資質向上)の形ができてきているので、今後も継続をし、向上を図る。

③: 教育

⇒クラス会議や教科会で教員間の連携を強化した。

⇒退学者を増やさない取り組みが結果に繋がった。

30年度も入学時からの意識改革と徹底した継続指導。また、教員全体会議での落とし込みを強化。
⇒心の教育は勿論、技術についても指導強化。

④: 募集

⇒引き続き募集予定人数を集め、定員増を目指す。